

平成30年度第1回目黒区産業振興ビジョン改定懇話会

日時 平成30年5月28日(月) 午後6時30分～午後8時
場所 目黒区総合庁舎1階 E会議室
出席者 (委員)
黒瀬会長、因幡委員、奥角委員、柏井委員、諏訪委員、柳本委員、團村委員、
平江委員、佐々木委員、高野委員、日比野委員、金阿彌委員、後藤委員、原島委員
(区側・事務局)
産業経済部長、産業経済・消費生活課長、他6人
傍聴者 なし

配布資料 資料1:区内事務所等へのヒアリングについて
資料2:目黒区産業振興ビジョンの課題整理と新しい施策体系の基本的な考え方
資料3:目黒区産業振興ビジョン改定懇話会委員名簿
産業振興に関する意識調査報告書

議事

1 開会

2 産業経済部長あいさつ

懇話会の開会に際して、産業経済部長より挨拶を行った。また庁内の人事異動についても報告を行った。

3 議事

(1)区内事務所等へのヒアリングについて

事務局より、資料1「区内事務所等へのヒアリングについて」を用いて説明を行った。

会長 今回の資料説明に関して何か質問はあるか。

委員 誰がヒアリングを行うのか。

事務局 区職員および委託事業者が実施する。

会長 ヒアリング項目は分かるが、何らかの仮説がないと表面的にならないか。例えば、アンケート調査では人手不足という課題があったので、その対応として外国人労働者の活用などの具体的な案を念頭においてヒアリングした方がよいのではないか。懇話会では目黒区ブランドについても言及があったので、その視点も加味することも考えられる。ある程度の仮説を念頭において問いかけた方が、踏み込んだヒアリングができるのではないか。

事務局 ビジョン改定のための基礎的なデータを収集するためのヒアリングなので、実際に行う際にはできるだけ踏み込んだ項目で検討したい。

会長
事務局
委員
事務局
委員
事務局
会長

どのような意見を聞きたいと考えているのか。

この後、改定にあたっての基本的な考え方について説明するが、意識調査等で読み取れた人手不足や高齢者の就業意欲などの課題認識についても触れているため、それらにかかわるヒアリングは行いたい。ご意見いただいた外国人労働者という視点は意識調査の時点でなかった部分であるため、ヒアリングで聞くべき点を指摘していただきたい。

ヒアリングは区職員と委託事業者で行うということだが、対象は各対象で3つに絞られている。中目まちづくりでは、行政が町会、商店街をすべて集めてヒアリングを行い、まちのことを知ろうとしてくれた。3事業者のみから個別の意見を聞くのがよいのか、広く尋ねる方がよいのか検討するべきではないか。

若手の経営者の後継問題も、各商店街によって状況が異なる。この質問は当該事務局の方に行った方がよい。商店街でも「チーム スマにゃん」という活動を実施しており、若手経営者を集めた情報交換や学びの場として区商連が仕組みをつくっている。個別よりも、連携している組織に尋ねた方がよいのではないか。商工会議所でも目黒支部の中に青年部を作っている。

事業者が重なっているところがあるため、そこで意見交換をして、どうやって若手を育てていくのかを考えてもらうことは大事だと思う。

事業所の皆さんに対してもアンケートはしているので、全体的な課題はある程度認識できている前提で考えている。商店街なら全商店街を集めることはできるが、分野ごとは難しい。東京商工会議所に青年部ができたことや区商連の組織も認識しているが、どこまで広げるのかということは検討させていただきたい。

意識調査を補完するという観点なのだろう。ヒアリング対象として3社ほど選定してもらおうが、どのように選定してもらおうのか。何十社もするのは難しいかもしれないが、事務局からヒアリングしたい対象についての具体的な希望を出さなければ、意識調査を補完する意見として捉えることが難しい。そもそもヒアリングする人間によっても変わってくるだろう。

依頼する立場としても3社程度紹介してほしいという条件だけでは難しいと考えており、紹介してもらいたい希望を具体的に出していく必要があると考えている。たとえば経営の状況や、商業でいえば、生活関連サービスのこういった業種を選ぶのかなども検討させていただきたい。

ヒアリングの聞き手は、担当者と委託事業者がよいと考えている。事務局の方と話す際にも、ヒアリング内容をご相談させていただきたいと思う。

アンケート調査を補完するものという話だが、多くの中小企業は経営状況が厳しい状況だということの中でも、少しでも新しい芽が出ているかもしれない。そのような芽を掴み取れるような事業所を中心に聞いていくような姿勢があってもよいと思う。事業所調査を見ると、事業転換や新規事業を始めた事業所を対象とするのもよいと思う。鋭い問題意識を持って焦点を当てないと有効なヒアリングができないのではないかと。

- 委員 基本的な景気判断と企業の業績判断の情報を持っているのが金融機関である。しんきん協議会も委員会に参加されているので、いろいろな企業の新規事業の融資をされているなかで、業績のよし悪しは金融機関が知っているところである。ヒアリング先を金融機関にしてはどうか。個人情報に差し障りない程度で答えていただけるのではないかな。
- 事務局 事務局の検討段階では金融機関を候補にしていたが、個人情報の兼ね合いで回答していただくのが難しいと考えた。個人情報に抵触しないかぎり情報提供いただけるなら、検討したい。
- 委員 新規先の企業も形態が様々であるため、ひとくくりに話ができない。各金融機関に聞いても、情報にばらつきが出てくると思う。目黒区は製造業の顧客が少ないが、地域ごとに客層も違う。金融機関に話を聞くと拡散してしまうので、よい結果にはならないように思う。新規先でも好調なところもあれば、悪いところもあり極端である。全体的に良い悪いと言える状況ではないので、目黒区の全体の状況としての情報を得るヒアリングは難しいと思う。
- 委員 目黒区産業連合会に加盟しているのは 210 社程度である。一時は 300 社以上だったが年々減少している状況である。公害や騒音の規制で工場は地方に移動するなか、本社だけが残り、協力してもらっている状況である。事務局として何社かピックアップはしているのだが、ヒアリングに行くときには事務局も同席した方が話しやすいだろう。
- 事務局 金融機関へのヒアリングについては、一般的なことではなく、例えば、事業転換をしたような事業所を紹介いただくことは可能か。
- 委員 ここで回答することは難しい。
- 会長 事業所調査では売上が増加した事業所は 14.7%しかいない。その事業所の要因を聞くということを尋ねるといことがあってもよいのではないかな。3社を選定するならば、売上が増加した事業所に絞るような考え方があってもよいと思う。
- 事務局 現時点で、3社としては、経営がよいところ、あまりよろしくないところ、問題のないところを想定している。経営状況を企業規模でみると、大きなところでなくても経営が上向いている事業所もあるので、個人事業主や小規模事業所で売り上げが増加している事業所にヒアリングをするということも考えられる。
- 委員 ヒアリングの項目は、経営上の課題と対応が挙げられているが、それがどのような補完になるのか。アンケート調査は客観的な情報だと思うが、それを3社から聴取した主観的な情報でどう補完するのか。
- 事務局 施策につなげていくときの参考としたいと考えている。現在のビジョンは、リーマンショックへの対応として、セーフティネットの施策が多くなっている。現在の目黒区の事業者の様々な状況を踏まえて、施策を検討していきたいと考えている。
- 委員 その場合でも、3社から知り得た情報に基づいて検討してしまってもよいのか。製造業なら 200 社から選ぶことになるが、商業・サービス業は数多くなかでどのように選ばばよいのか。

- 会長 ヒアリング調査は重要だと思うが、代表性はない。活用するとすれば、振興ビジョンにおけるストーリーにおいて、目黒区の産業の方向性を仮説として持ち、その具体例となる事業所にヒアリングを行う方が妥当であろう。このあと説明がなされるのかもしれないが、ビジョンのシナリオがあり、具体的な事例によって裏付けていこうという考え方の方がよいのではないか。ヒアリングは実施した方がよいと思うので、代表性の観点で言えば説得力をもたない。そうであれば、今後の方向性に沿った事例として事業者に話を聞いた方がよいだろう。
- 委員 特殊性を捉えた方がよいということなのだろう。産学連携については、産業能率大学であれば自由が丘で取り組んでいることを例として取り上げるのだろうし、商店街連合会については差が大きいので、自由が丘商店街は外せないと思う。それ以外に学芸大や中目黒などの状況も踏まえて、特記すべき事例を取り上げていくのだろう。
- 委員 商工会議所の3社はこだわりのあるところかもしれないが、他は区内の一例として取り上げることは可能であると思う。
- 事務局 例示するのであればよいが、アンケート調査を補完することは難しいと思う。
- 事務局 もちろん、ヒアリングでの意見が区全体の事業者の意見とならないことは理解しているが、個々の事業者の声を聞く必要もあると思う。ただ、3社を5社、10社と増やしても、問題は解決しないため、ご意見いただいた視点をもってヒアリング先を選定していく必要があると思う。その点は東京商工会議所などと相談させていただきたい。
- 会長 これまでの意見に共通しているのは、ヒアリングから全体の動向を代表する情報を得ることはできないので、視点を絞って、可能であればビジョン改定の方角を事例でもって裏付けるようなヒアリングができればよいということである。ヒアリング先が偏っても仕方ないと思った方がよいだろう。
- 事務局 ご意見を踏まえて、状況のよいところはその要因を、状況のよくないところはそのような対応をしていけばよいのかということを探るようになっていきたい。ビジョンの2つの視点になってくるため、その観点から精査させていただきたい。

(2) 目黒区産業振興ビジョンの課題整理と新しい施策体系の基本的な考え方

事務局より、資料2「目黒区産業振興ビジョンの課題整理と新しい施策体系の基本的な考え方」を用いて説明を行った。

- 会長 ただ今の説明について意見をいただきたい。
- 委員 第一印象として感じたのは、「意欲のある」という言葉が使われているということだ。ものづくりでは使われているようだが、商業・サービス業では使われていないようだが、何か意図はあるのか。
- 事務局 言葉を使っていないが、業種に関係なく意欲のある事業者は支援していきたいと考えている。言葉づかいは精査したいと考えている。

会長 目黒区は他自治体と比較して特徴的なことはあるのか。
 事務局 近年策定されているものを見てみると、大きな視点としては近いものがあるが、理念では特色を出している傾向がみられる。世田谷区では「区民・産業がつくる 世田谷の新たな価値と豊かさ」、新宿区では「革新と創造に取り組む企業の集積と持続的に発展する産業システムの形成」となっている。目黒区の特徴を考えたときに、国全体でも事業承継が課題になっているが、目黒区は小規模な企業がかなり多く、意識調査でも廃業を検討している事業所が少なくないので、それが課題となるのだろう。また、前回の懇話会でブランドと魅力はありながら、集客力が弱いということが話題に上がったので、その点も課題と認識している。

委員 事業承継が課題という話があったが、事業承継は儲かる仕事なので、各金融機関はこぞって取り組んでいる。実際に、廃業の相談もあれば、具体的な承継の相談があるのだが、区としてどのような立ち位置で取り組むのが気になる。金融機関と提携するのか、何か具体的な考えがあれば教えてもらいたい。

事務局 具体的な考え方があってはいいが、区がやるべきことは環境整備だろう。金融機関につなげる仕組みや、団体を活用してもらうことを促していくことなどが区の取組になると思う。税制も変わるので、何ができるのかは考えていきたい。

委員 社会福祉協議会がリバースモーゲージを取り上げている地域がある。金融機関で相続に携わるときが少なからずあるのだが、死んだら国庫に預けるという話を聞くこともある。目黒区の方は富裕層が多いので、事例は少ないとは思っているのだが、資産に関する考え方も視野に入れてもよいのかなと思った。

事務局 産業振興の範疇かどうかは分からないが、参考にさせてもらいたい。

会長 新しい施策体系が明確になれば、それに位置づける事業も示されるのか。
 事務局 ビジョンではあるが、具体的な事業は位置づけていきたいと考えている。
 会長 懇話会では事業について意見交換ができるのか。
 事務局 素案でその形で示したいと考えているため、そこでご意見をいただきたい。事業の詳細までは示さないが、事業の考え方などをまとめる予定である。

委員 富裕層が多く、非常によい住環境であることが目黒区の特徴だろう。そこに住む方たちにどのようなサービスをするのかということが商店街の課題だろう。小売業にしても、インターネットや大手スーパーもあるので、ここでしか買えないものを取り扱うところがのびている。目黒区の住民に対してサービスを行うことが特徴になると思う。その住環境が高い地価をもたらす、高い資産を持つ方もいるため、事業承継やリバースモーゲージなどの資産を処分することも産業になるのだろう。目黒区の特徴として住環境のよさについては理念のなかに反映できているとよいと思う。

委員 「雇用・事業のセーフティネット」というのは、雇用と事業のそれぞれにセーフティネットを講じるということなのか。

事務局 雇用施策は現在のビジョンの中にも入っているが、セーフティネットは事業に対して取り組むことになると考えている。現在のビジョンから、言葉が残ってしまっているところがあるため、言葉を精査させていただく。

- 事務局 現在のビジョンはリーマンショック直後に策定したため、雇用支援なども対策として必要だったが、現在の状況では高齢者や女性の雇用促進や働き方などについて取り組むことになると考えている。
- 委員 基本方針の5つ目で「ブランド力を活かし、景観や観光の施策とも連動し、産業面からまちの魅力を高め、創出する…」と書かれているが、「産業面からまちの魅力」という観点は難しいように思う。具体的には想定できないのだが、何かイメージをしているのかは分からないのではないかな。
- 委員 目黒に住んでいる、働いているといいねと言われるのがブランド力なのだと思う。
- 委員 基本方針が分かりにくい。2つ目と3つ目の○が重複しているように思う。ビジョンが落ち切っていなかったり、重複しているように感じる。基本方針なので分かりやすく整理してもらいたい。
- 会長 2つ目の○は事業所の底上げなのだろう。経営的に厳しい企業がある現状を踏まえて、経営基盤や経営力などの基本的なことを挙げていると考える。3つ目は創業・起業などの力を伸ばしていく方針であると思う。4つ目は商店街を意識している。最後は、商店街も製造業も含めて、目黒区のブランド力とは何かという議論もあるが、現存の企業とのギャップを埋めることにより、世間がイメージする中目黒のブランド力に追いつくような総体を作り上げることによって、まちの魅力を高めることと推測した。
- 委員 住みたい街というのは分かるが、産業面からいう目黒区のブランド力は何があるのかが気になる。
- 事務局 文言は精査したいが、5つの方針の意図は会長のおっしゃったとおりである。目黒ブランドは明確に説明できるわけではないが、住んでよし、働いてよし、訪れてよしということではないかと考えているが、今回、観光ビジョンは別にしてはいる。分かりやすい表現で示せるように検討させていただきたい。
- 委員 ブランド力は分からないが、集客力ははっきりしている。目黒区のブランドは区なのか、個々の商店なのか。
- 事務局 現在のビジョンでは、独自のブランドの創出としているため、目黒ブランドの商品開発をイメージしている。
- 会長 東大阪市では、東大阪ブランドに取り組んでいる。いくつかの条件があり、それに合致すれば東大阪ブランドを使ってもよいということになっている。東大阪市は製造業だが、ものづくりのトップブランドもあるようなので、ブランドと言われればよく分かる。
- 委員 目黒ブランドというと分からないが、自由が丘ブランドや中目黒ブランドなら分かる。
- 委員 誰が訪れても素敵なものに出会えるまちが目黒なのだろうと思う。それがブランド力になっていると思う。
- 委員 白金ブランドなら分かるが、港区ブランドは分からないのと同じだろう。
- 事務局 ○○ブランドと一定の基準を設けて、区内商品を紹介するということはあると思うが、

いまは抽象的なので、表現は検討したい。

委員 中目黒は活性化していると思うが、消費者団体の立場としては、地に足がついていないようにも思う。ブランドを考えるとときに、視点が欠けているのが環境への配慮だと思う。消費者団体として環境審議会に出席していたが、目黒区として環境に取り組んでいることもブランドになるのではないか。新しい課題認識にも、SDGsのようなことを盛り込むことができるのではないか。

また、基本理念で書かれている「生活が豊かになる」ということはどういうことか。ものがあふれている状況で経済とは相容れない視点になるかもしれないが、経済だけではなく、環境や持続可能性という視点もあった方がよいのではないかと思う。そういうことがビジョンに盛り込まれるとよいと思う。

会長 SDGsは参考になると思う。余裕のある地域であるからこそ、取り組める視点でもあると思う。

委員 産学連携の文言が使われており、大学にもヒアリングに来てもらう予定である。大学の産学連携の意向としては、やはり大きな資本と組みたいという考え方があると思う。ただ、小さい事業所と組んでサポートすることも考えていかないといけないと考えている。教員は個別の小さいところと組みたいと思っているようだが、資金面のこともあるため、なかなか実行できない。小さいところも支援していきながら、全体としてムードをつくっていけるとよいのではないか。

4 その他

事務局より、今後の予定として 6 月から7月にかけてヒアリング調査を行い、その報告とビジョンの考え方を整理した内容を次回の懇話会で議論していただくことを説明した。

5 閉会